

# 令和5年度 風の子保育園 事業報告

## 2023年度 事業計画

(具体的な取り組み)

### 1. 保育

- (1) 子ども一人一人の発達を保障し、子ども理解を深めていく
  - ・ 0、1歳児保育の連携を考えた柔軟な保育をしていく
  - ・ 障害児保育を丁寧にしていく
  - ・ 5歳児保育を充実させていく
- (2) 保護者と共に
  - ・ 子どもの姿を丁寧に伝え、保護者支援をしていく
  - ・ 園と父母の会との連携の中で、園行事や父母の会活動を進めていく
- (3) 職員一人一人の専門性を高めると共に、実践へと活かしていく
  - ・ 園内研修の充実
  - ・ 子どもを捉える、子どもへの適切な対応とは・・事例検討から考える

### 2. 経営

- (1) 職員の給与改善
  - ・ 昇給と若手職員の給与の2年目の調整を行っていく
  - ・ 処遇改善Ⅱは、職員の職務職責を明確にし、対象者を拡大していく
  - ・ 処遇改善Ⅲは、処遇改善Ⅱとの調整の中で金額を決め、手当として支給していく
- (2) 園児数の定員割れを分析していく
  - ・ 今後の定員数の検討をしていく
- (3) 50周年(2027年)に向けて
  - ・ 未来検討会で企画を考えていく
- (4) 検討課題
  - ・ 保育園前の田んぼの活用を考えていく
  - ・ ホームページ
  - ・ LED化

新型コロナウイルスが5類になった(5/18より)ことから、様々な制限が解除されたことにより、社会全体が日常生活に戻り始めました。コロナ禍の中での生活は、子どもの育ちにも経験すべき時に活動や人との関わりが制限される等、大きな影響があったように思います。その中で、私たちは「どうだったらできるのか？」行事の見直しややり方を変えみる等、試行錯誤しながら進めてきたことは、とても大事な時間であったと改めて思います。今後も『子ども・保護者・職員にとって』に立ち戻り、今まで大事にしてきたことと、新たなやり方を取り入れた保育を皆で考えていきたいと思っております。

**【園内体制について】**

4月の園児全体数は100人でした。0歳児は、在園児の兄弟5名からのスタートし、1歳児は新入園児6名が入園し、16名で定員となりました。しかし、2、3、4歳児は定員割れしており、園全体数に大きく影響しています。反面、0、1歳児の申込が多いことから10月より1歳児は18人、1、2月にかけて0歳児を14人まで定員数を増やして受け入れをすることにしました。

また、2歳児は途中入園の申込が随時あり、定員に達することができました。

最終園児数は、112人となりました。今年度、乳児の申込が増えた事には、4月から始まった第2子無償化も大きく影響されていると思いますが、入園状況からみると第2子の割合は半分でした。今年度、0、1歳児の受入れ枠を増やすことができたのは、子どもの状態が安定し、職員の連携と子どもの発達に合わせた、0、1歳児保育を柔軟に創ってくれているからこそできることだと思います。また、0、1歳児が増えたことにより、1月より園内体制を調整する中で、職員体制を変更してきました。これは若手職員の成長から、保育を任せていけることができたことにより、職員体制の変更ができました。

今後、少子化が進む中で子どもの入園状況は厳しくなることが予測されます。入園を希望する保護者がいる場合、今年度のように柔軟な保育や保育者間の連携の中で最大限の受け入れ体制を考えていきたいと思っています。

**(4月) 保育体制**

歳 児	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
定 員	12	16	20	24	24	24	120 人
4 月園児数	5	16	16	20	19	24	100 人
保育士	3+1 (5月～)	4	3	2	2	2	17
	全体フリー1 (6月下旬～産休)						1

**(3月) 最終人数と保育体制**

歳 児	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
3 月園児数	14	18	19	18	19	24	112 人
保育士	5 2歳児職員 (1)が移動	4	2 3歳児職員(1)が 2.3歳フリーに変更	1 4歳児職員(1)が 4.5歳フリーに変更	1 4歳児職員(1)が 4.5歳フリーに変更	2	17

**乳児の途中入園状況**

歳児	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	5	7	8	9	9	10	12	12	12	13	14	14
1歳	16	16	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18
2歳	16	17	17	18	19	19	20	20	20	20	20	19

## 【具体的な取り組み】

### 1. 保育

#### (1) 子ども一人一人の発達を保障し、子ども理解を深めていく

子どもの発達、状態に合わせた、柔軟な保育を考え実践してきました。

(実践例1)

0、1歳児は、子どもの発達に合わせて0、1歳混合保育の保育体制をつくってきました。0歳児の4月生まれ(4名)が落ち着いて生活できてくると1歳児へ移行し、秋以降1歳児の小グループと生活、遊びを一緒に過ごしてきました。それに伴い、0歳児の途中入園の受け入れを増やしてきました。

(実践例2)

5歳児保育を子どもの姿から見直し、保育形態を変えてきました。年度当初は、24人を保育士2名で保育していましたが、2つのチーム(12人ずつ)に生活を2つに分けたことは、部屋の空間、声の大きさ、待ち時間が減り、それぞれの遊びの保障がされることで、子どもたちが落ち着いてきました。また、拠点となる保育士が明確になり、困った時や伝えたい時に聞いてもらえることが、子どもたちの安心感と居場所に繋がりました。生活が定着し、チームの子どもたちの関係性ができてきた6月、合宿保育を通して一人一人が、目的に向かって話を聞いたり、行動したり、仲間と協力する子どもの姿から、24人のクラス集団に生活の場を戻していききました。

私たちは子どもの姿から『子どもにとって』に立ち戻り、保育を振り返り計画を立てることを大事にしています。しかし、子ども一人一人に合わせて保育を変えていくところまでには十分に至っていません。実践例から、『保育が変われば、子どもが変わる』と改めて感じていると共に、これからも試行錯誤しながら、『子どもとつくる保育』をめざしていきたいと思えます。

#### (2) 保護者と共に

園行事や父母の会活動に関しては、新型コロナウイルスが5類になったことから、取り組みを少しずつ戻してきました。全て今まで通りではなく、コロナ禍の経験を活かした新たなやり方の中で、各々の行事や活動を再開することができたと思えます。

保護者の求める保護者同士の繋がりでは、まだまだ不十分なところがあり、今後の課題です。行事の更なる拡大をすると共に、企画内容を父母の会と連携し合いながら、保護者同士の繋がりや親睦が深められるよう考えていきたいと思えます。

#### (3) 職員一人一人の専門性を高めると共に、実践へと活かしていく

園内研修の中で、『子どもを捉えるとは』をテーマに退職職員 加藤道子さんを講師に年3回の職員会議での学習会を行いました。給食職員には、前園長 大滝裕子さんを講師に風の子保育園の給食の歴史や大事にしてきたこと(旬の野菜、味覚、アレルギー一食等)の学習会を2回行いました。諸先輩方との学習会は、風の子の保育、給食の中で大事にしてきたこと知り、職員の学びとなりました。今後は実践に繋げていきたいと思えます。

## 2. 経営

### (1) 職員状況

4月正規職員1名と5月臨時職員1名を採用しました。8月より産休職員1名がいました。高齢者雇用の清掃職員2名は体調不良から年度内での退職となりました。

### (2) 職員の給与改善

- ・若手職員の給与の調整2年間での若手職員の給与調整を行いました。
- ・処遇改善Ⅱは、対象者を拡大しました。クラス副担任をつくり若手にもクラスにおいて責任をもてる配置をし、対象者を拡大しました。しかし、副担任の役割が分かりにくい点があったため見直し、検討していきたいと思います。職員の職務職責を明確にし、手当を付けることでの職員の仕事への責任や意欲に繋げていきたいと思います。

### (3) 園児数の減少による定員数の見直しについて

子ども未来課に相談したところ、子育て安心プランの取り組みの中で、区分されている風の子保育園の有度地区は需要と供給の関係性からも、定員の維持をして欲しいと言われました。定員の見直しについては、今後の入園状況をみながら検討していきたいと思います。

【過去11年の園児数3月末】

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
園児数	126人	119人	116人	119人	115人	113人	110人
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		
園児数	115人	115人	115人	109人	112人		

### (4) 50周年(2027年)に向けて

未来検討会で企画を考えていく予定でしたが、計画的に会議を行うことができませんでした。来年度、計画的に進めていきたいと思います。

### (5) 検討課題

- ・保育園前の隣地(田んぼ)の活用については、園として土地購入を考えています。使用目的等は、未来検討会を中心に計画的に具体化していきたいと思います。
- ・ホームページについては、見直しを行いました。新たに保健に関する書類等のダウンロードができるように追加をしました。
- ・LED化については、今年度は補助期限に間に合わなかったため、来年度申請予定で進めています。